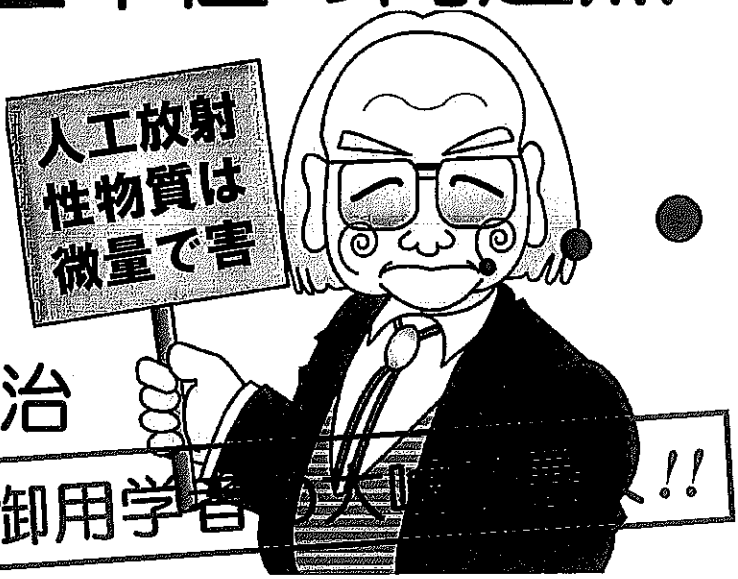
2015年2月7日(土) 午後1時30分～ 4時　於:文京区アカデミー音羽1階

飲食物の放射能汚染と新基準値の問題点

子どもを守らない国に未来は無いのだ



生井兵治

3.11枝野「原子力緊急事態宣言」会見を聞き80日間引籠る

α線・β線による低線量内部被曝の害を訴えよう!

脱原発・子どもを守れ!!

もくじ

前口上
第1部　欺瞞的国の放射能汚染食品対策
第2部　自然核種K-40と人工核種Cs-137のβ線放射実態の検証
第3部　政府に対する放射能汚染食品の摂取による内部被曝の回避に向けた七つの提言
おわりに ―― 進化論が拠所

「3.11」に始まる枝野官房長官の会見は、大本営発表の再来!!「原子力ムラ」の攻勢が強まる

前口上　私の信条：基本的人権の擁護

農作物放射能汚染プロセスと除去の可能性を考える1/3
by chonochannel　上杉隆「ニュースの深層」（2011年5月30日）

× ●ICRP（国際放射線防護委員会）：内部被曝隠し
γ線
「リスク・コスト－ベネフィット論」
――原子力利用は危険でも、相応の利益があるから、経済的負担を軽くして、ある程度の人的被害（癌など）が増えてもよいという、限りなく非人道的な基本スタンス。

○ ●ECRR（欧州放射線リスク委員会）：
限りなく人道的。飲食と呼吸で取込む核種による長期の低線量内部被曝を重視。
α線、β線
2010年勧告は、「公衆の構成員の被曝限度を0.1 mSv/年 以下に」と提言。

第１部　政府の欺瞞に満ちた放射能汚染食品対策

1.1. 農水省の基本姿勢：「風評被害」招く
1.2. 厚労省の基本姿勢：「食品安全」の嘘
1.3. 飲食物の暫定規制値と新基準値
1.4. 地方自治体の食品放射能汚染検査
1.5. 現在の出荷制限品目（2015年1月25日現在）
1.6. 水田稲作規制と土壌汚染程度
1.7. 関東など広域の放射能汚染状況
1.8. チェルノブイリとの比較
第1部　まとめ

1.1. 農水省の基本姿勢：「風評被害」招く

原発内ではCs-137≧100Bq/kgなら、低レベル放射性廃棄物!!

出所：ナカヤマヒトシ通信

「食べて応援しよう！」

2011年4月28日、菅直人民主党内閣の鹿野道彦農水大臣は、蓮舫消費者及び食品安全担当大臣と共同でフード・アクション・ニッポンと連携し、福島県など東北の被災地食品を「食べて応援しよう！」と呼びかけ、今に至る。

1.2. 厚労省の基本姿勢：「食品安全」の嘘

例えば、厚労省等のリーフレット『食べものと放射性物質のはなし』

- 食品中の放射性物質は「国のガイドライン」に従い地方自治体が「月平均約1万8千件」調べ、結果をすべて公表し、基準値を超えれば出荷制限。
- 人工核種 **Cs137** による内部被曝は、自然核種**K-40** のそれと比べてごく僅か。
- だから、新基準値以下の食品は、すべて「ずっと食べ続けても安全」。

これらの説明は、本当か?!

1.3. 飲食物の暫定規制値（2011.3.17）と新基準値（2012.4.1）

暫定規制値:

測定：Csのγ線のみ

新基準値:

測定：Csのγ線のみ

図 食品中の放射性セシウムの新基準値
(単位はベクレル/kg)

被曝上限を1mSv/年。

各核種による被曝上限を5mSv/年と規定。
①ヨウ素（β線/γ線）
②セシウム
（β線/γ線）
③ウラン
（α線/γ線/β線）
④プルトニウムと超ウラン元素のアルファ核種（α線）

食品群	暫定基準値
野菜類	500
穀類	500
肉・卵・魚・その他	500
牛乳・乳製品	200
飲料水	200

食品群	新基準値
一般食品	100
牛乳	50
乳児用食品	50
飲料水	10

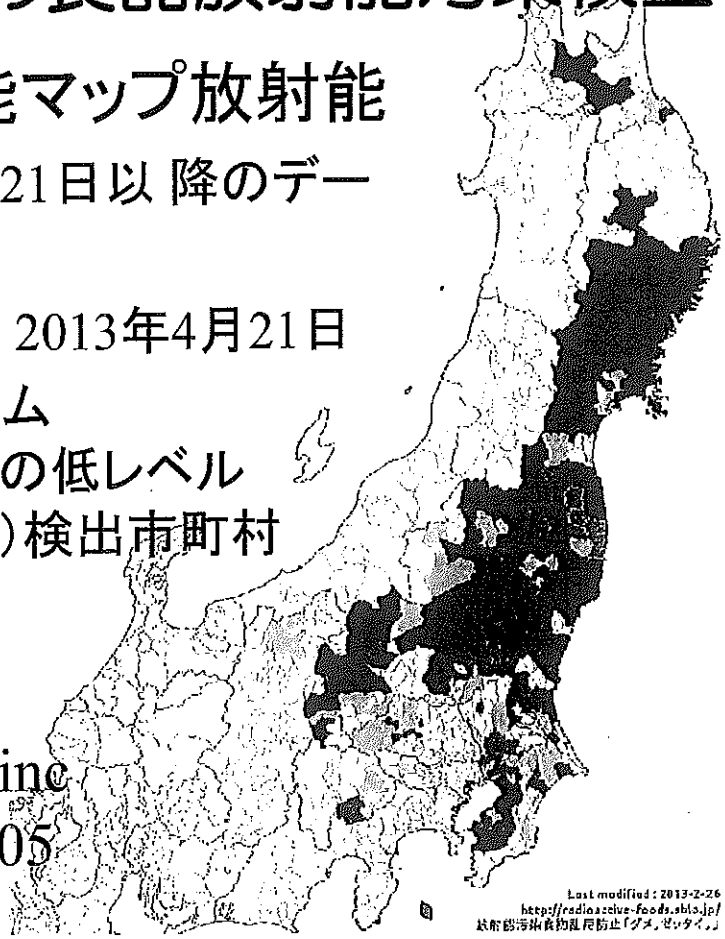
Pu-238:
Sr-90:
Ru-106:
Cs-134:
Cs-137
=0.000002
：0.003
：0.02
：0.92
：1

1.4. 地方自治体の食品放射能汚染検査

図 農産物の放射能マップ放射能マップ（2012年3月21日以 降のデータ使用）

くみんちゅ @kuminchuu ・2013年4月21日
・対象核種：放射性セシウム
赤色：100Bq以上（原発内の低レベル放射性廃棄物基準）検出市町村
橙色：50Bq～100Bq/kg
：50Bq/kg以下検出

https://twitter.com/kuminchuu/status/326136288405250048/photo/1



・加工食品を含む全農林水産物の日毎の検査件数：福島県でさえ今約120件、2011年（事故年）では約40件で、店頭の食品は殆どが非検査産品。

1.5. 現在の出荷制限品目（2015.1.25.現在）

青森、岩手、宮城、山形、福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、新潟、長野、山梨、静岡の14県。

特に海産物が心配

流出汚染水にはトリチウムやストロンチウム90が!!

米国の飲用水：トリチウム<740 Bq/L

・食品検査：セシウムだけでは問題。

・福島第一原子力発電所周辺における地下水分析結果（1～4号機護岸）2015年1月21日現在

排出許容値：H-3（6万Bq/L）、Sr-90（30Bq/L）

【1,2号機間ウェルポイント汲み上げ水】（右数字：採取月日）

セシウム134：22Bq/L 1/19
セシウム137：76Bq 1/19
全ベータ：1,200,000Bq 1/19
トリチウム：88,000Bq 1/12

【地下水観測孔No.1】

セシウム134：ND 1/19
セシウム137：ND 1/19
全ベータ：76Bq 1/19
トリチウム：170,000Bq 1/15

正常なH同様、DNAに取り込まれ得る

全β中のSr-90(約29年)がH-3(約12年)より問題

2015年1月28日 東電交渉：汚染水放出とトリチウム等の影響（いわき市議佐藤かずよし氏）

トリチウム（H-3）汚染水の海洋放出中止要請。東電は、総量1000兆BqのH-3汚染水の海洋放出を示唆。海洋汚染が心配!!

2015.1.21. 規制委は海洋放出を認可

東電：（2017年から可能）

●全βの過去最高値：780万Bq/L（2014.10.13）

平成27.1.21日（http://www.tepco.co.jp/decommision/planaction/monitoring/index-j.html）